

検索技術者検定 1 級 受験の手引き

この手引きは、1 級を受験される皆さんが少しでも効率的な受験勉強を進められるように、試験の領域および受験のための学習方法について説明したものです。この手引きをご利用いただき、受験勉強の参考にしていただければ幸いです。

皆さんのご健闘を祈念しております。

1. 試験の対象者

1 級試験の対象者は、検索技術者検定 2 級（情報検索応用能力試験 2 級、データベース検索技術者認定試験 2 級含む）合格者の方です。

2. 試験の領域

1 級に求められる人材は、情報検索やデータベース、および関連分野に関する広い理解と高い専門知識を備えていることが求められます。さらに情報活動に関するマネジメント・スキル、たとえば部門間の調整や問題解決能力を有することも求められます。

試験領域の区分および内容は下記のとおりです。

区分	内容
(1)情報検索技術に関する知識と実践	<ul style="list-style-type: none">・情報源の選択および経済的評価能力・高度な検索技術の実施能力・情報要求者とのコミュニケーション能力
(2)情報組織化と流通	<ul style="list-style-type: none">・データベースの種類・データベースの流通・情報サービス機関
(3)専門分野の情報	<ul style="list-style-type: none">・専門分野の情報資源・専門分野の主題知識・専門分野の法規制に関する知識・専門分野の調査結果の解析、評価・専門分野周辺領域に関する知識・情報検索に関する英文解読力・インフォプロの役割
(4)情報の利活用	<ul style="list-style-type: none">・情報の管理・情報の分析・知的財産権、著作権に関する知識・情報と問題解決

(5)情報の最新技術	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータに関する知識 ・インターネットに関する知識 ・情報セキュリティに関する知識
(6)情報の伝達と評価	<ul style="list-style-type: none"> ・小論文執筆能力 ・プレゼンテーション能力
(7)教育・指導能力 調整・提案能力	<ul style="list-style-type: none"> ・ユーザー教育の企画・運営能力 ・サーチャー教育の企画・運営能力 ・部門間調整能力

(1)情報検索技術に関する知識と実践

(2)情報組織化と流通

(1)、(2)は情報検索の基礎的な部分ですので、日頃の情報調査業務を通じて培われるものですが、不安なところは2級用テキスト（4.その他参照）等で復習しておきましょう。

(3)専門分野の情報

各自専門分野の情報資源については、データベースだけでなくweb上の有用サイトについても理解を深めておくとよいでしょう。また、インフォプロの役割についても自身の考えを整理しておくことは有効です。

(4)情報の利活用

特許マップや解析データのビジュアル化などの情報解析技術についての知識が求められます。また情報を活用するときには注意しなければいけない著作権についても基本的知識を理解しておきましょう。「情報と問題解決」の基礎知識は、2級用テキスト（第12章）で理解しておきましょう。

(5)情報の最新技術

情報担当者として知っておくべき知識が求められます。「情報の科学と技術」や「情報管理」、ベンダー等のHPで関連知識を深めるとよいでしょう。

(6)情報の伝達と評価

インフォプロ、社内での情報調査のあり方等関連するテーマで小論文を書いてみるとよいでしょう。自身の考え方を日頃から整理しておくことが大切です。

(7)教育・指導能力、調整・提案能力

エンドユーザー教育を企画・実施する、部門の新人への教育カリキュラムを考える等、その機会の有無にかかわらず想定して考えてみるとよいでしょう。

(8)その他

対外活動（各種団体・活動への参加、口頭発表、文献発表等）も評価の対象となります。

また、ここ3-4年の過去問題も解けるようにしてください。

3. 二次試験（面接）について

決められた課題に関するプレゼンテーション能力を問うほか、情報検索関連業務についての考え方や企画力、情報検索技術と問題解決能力を組み合わせた情報サービスのスキルなどを問う出題が、口頭試問によって行われます。

4. その他

1 級は、日頃の業務経験により培われたマインドが問われます。そのため、指定された参考書はありませんが、2 級用テキストの内容は理解しておくようにしましょう。また「情報の科学と技術」、「情報管理」などの関連雑誌は日頃から目を通し、掲載されている論文については簡単に内容を説明できるようにしましょう。

※ 2 級用テキスト「情報検索の知識と技術 応用編」 情報科学技術協会発行

※なお、本手引きについての質問にはお答えできませんのでご了承ください。